

令和7年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和8年3月12日（木）14：00～16：30

方 法：WEB

出席者：【ZOOM参加】13名

奥平藤也（県立中部病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、横田美佐（県立宮古病院）、上原弘美（友愛医療センター）、田場純子（沖縄県保健医療介護部）、増田昌人（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：間島奈央子（キャンサーフィットネス）、西村克敏（地域統括支援センター）

陪席者：なし

【報告事項】

1. 令和7年度第3回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和7年12月11日）

資料1に基づき、友利委員より、令和7年度第3回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

友利委員より、AYAウィーク2026へ応援フラッグを提出し掲載されたと報告があった。

【協議事項】

1. 次年度の委員および部会長の選任について

協議の結果、次年度部会長に中部病院 奥平委員、副部会長には琉球大学病院 友利委員と那覇市立病院から1名を選任することとなった。部会委員の構成に変更はない予定。

2. 令和8年度部会計画

資料3に基づき、増田委員より、第4次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会版）ロジックモデルおよび国部会のがん相談運営委員会で検討されている内容や拠点病院指定要件WGの動きについても情報提供があった。これらを参考に、部会計画を立ててほしいと説明があった。

主な重点項目は以下の通り。

- ・沖縄は拠点病院カバー率3割台（全国最低）であるため、拠点病院以外の相談支援体制の構築
- ・各施設での相談支援センターに必ず立ち寄るシステムづくり
- ・相談者からのフィードバックとがん相談対応のモニタリング体制の整備
- ・ピアサポートの活用・患者サロン支援
- ・コミュニケーションに配慮が必要な方への情報提供
- ・すべてのがん診療施設による、自院で対応可能ながん診療の公開および情報提供

- ・就労支援（地域のハローワーク等との連携）
- ・アピアランスケアの充実
- ・偏見・疎外感をなくす啓発イベント
- ・がん相談支援センターにおいて、多職種および他部門との連携のもとハブ機能を発揮した取り組みを行うこと
- ・がん相談支援センターに GM を置き、病院はその人材育成を組織的に支援すること
- ・相談員は院内の主要な会議及び委員会へ参画すること

引き続き、各委員にてがん対策推進計画（協議会版）をベースに部会計画として必要だと思う項目を検討し、メール審議を行う予定となった。

3. 令和 8 年度地域相談支援フォーラム in 沖縄の開催について

資料 4 に基づき、友利委員より開催概要案について説明があった。12 月 5 日オンライン開催に向け、4 月以降は月 1 回程度の頻度で実行委員会を開催できるよう準備を進める。

実行委員体制について、中核となるコアメンバーは部会委員を中心に構成する。部会委員以外ではがん専門医療機関からも派遣要請を行い、主に当日のファシリテーターを中心に担っていただくことを想定している。詳細な実行委員の役割分担の説明は後日行う。その前にテーマと講師の決定が重要であるため引き続き意見を求めたいと説明があった。

各委員より、テーマ候補や講師案が出され、今後の方向性について幅広く意見交換が行われた。特に ACP、意思決定支援、心理・社会的支援、相談支援の役割などが中心的な話題となった。

検討されたテーマと内容については、下記の通り。

- ・相談支援について、拠点以外のがん専門施設も含めそれぞれの役割を再考する内容。
 - ・手術の集約化と対照的に、緩和ケアや支持療法等は地域で継続される流れが予想されるため、拠点病院以外でも ACP への取り組みは必要になることから、ACP を切り口に相談支援や相談員の役割について改めて考えるのはどうか。
 - ・小川先生の認知症分野での意思決定支援の講義が参考になった。認知症に限らず、他分野の意思決定支援の知見をがん相談に応用できる可能性がある。
 - ・東畑開人先生の心理支援に関する内容が、がん患者さんの心理状態にも非常に適している。精神科治療には至らないが“心が曇る”状態にある患者さんにどうアプローチするかを考えるうえで、とても良い観点になるのではないか。
 - ・単身家庭で多重困難を抱える患者さんの事例を踏まえ、担い手の減少などの背景からがん相談窓口だけで支える構造は限界があるという指摘と、地域でのサポートも受けながらどう治療と向き合うことができるのかを検討するのはどうか。
 - ・患者さん自身のセルフケアの観点も含めてはどうか。
 - ・社会的支援（坂本先生）と心理的支援の両方の観点で、網羅的に学ぶ内容はどうか。
- 協議の結果「相談員の役割」「心理・社会的支援」を軸に検討することとなった。

次回の実行委員会は、4 月 15 日 16:30～17:00、ZOOM で開催予定。今回は研修のねらいや到達目標を具体的に検討するため、各自で「今回の研修で相談員としてどう成長し

てほしいか」を考えておくよう周知があった。

4. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会版）中間評価について

資料5に基づき、増田委員より、沖縄県のがん計画における「情報提供・相談支援」に関する評価の進め方と、最新の患者体験調査結果をもとにした現状分析について説明があった。評価の進め方として、今後3か月程度で、ベンチマーク部会が中心となり現行のがん計画の進捗を評価する。評価には主観指標（患者体験調査）と、可能な範囲での客観指標を使用。相談支援分野は客観指標が少ないため、患者の主観評価を中心に相対的（年次推移・全国比較）で評価している。評価結果の○・×はベンチマーク部会で機械的に判定し、その後に相談支援部会委員へコメント記入を依頼する予定。

【報告事項】

2. 地域統括相談支援センター活動報告

資料6について、紙面報告。

3. 令和7年度第2回がん相談従事者研修会の開催について

資料7に基づき、紙面報告があった。2026年3月19日（木）17:30～19:00、オンライン開催。テーマ「沖縄県のがん医療の集約化・均てん化の今後の展望」、講師は琉球大学病院増田昌人先生。委員の参加および各病院での周知依頼がされた。

4. がん患者ゆんたく会（令和7年10～12月）

資料 8-1～8-3 に基づき、令和7年10月～12月に各拠点病院にて開催されたがん患者ゆんたく会について報告があった。

中部病院は奥平委員より報告があった。フリートークを中心に進行し、新規参加者もいて時間延長するほどだった。

那覇市立病院は糸数委員より報告があった。1月に開催、テーマを「医師とのコミュニケーション」とし、医師による講話を実施。参加者から医療不信や医療者連携に関する率直な意見が出される場面もあった。講師から丁寧にチーム医療などへの追加説明や、他の参加者からは医師とのコミュニケーションが安心感につながった体験談なども語られていた。

琉球大学病院は友利委員より報告があった。各月毎に講義を開催。薬剤師による講話、専門看護師によるリンパマッサージ実演、パンキャンジャパン（臍がん患者会）による講話などを実施し、好評であった。

北部地区医師会病院は仲村渠委員より報告があった。年3回開催計画し、11月・2月の参加者はゼロだった。ピンクパンサー（乳がん患者会）に参加いただいた。テーマを設定することで参加者が限定される可能性もふまえ、運営方法を検討している。まずは定期開催することを重要視し、今後広報を強化する。

5. がん相談件数（令和7年10～12月）

資料 9-1～8-6 に基づき、令和 7 年 10 月～12 月の各拠点病院のがん相談件数と内容について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

10 月 56 件、11 月 65 件、12 月 34 件。在宅点滴や高カロリー輸液を使用する方の増加、訪問看護・訪問診療との連携が増えている。

○県立中部病院（奥平委員）

10 月 124 件、11 月 85 件、12 月 94 件。治療開始前の相談件数が 10 月は多かったが減少傾向。院外からの相談は約 1 割で大きな変化なし。

○那覇市立病院（糸数委員）

10 月 124 件、11 月 66 件、12 月 74 件。相談件数が減少した背景に院内の相談記録の登録システム変更による入力の違いがある。直通電話での相談が年明け以降増加。相談経路に新聞広告の影響も見られた。相談支援センターを複数箇所利用している方も見られた。

○県立宮古病院（横田委員）

10 月 110 件、11 月 65 件、12 月 70 件。県外からの看取り目的の相談が増加。飛行機便の制約により受け入れ調整が難航するケースが多い。

○県立八重山病院（岩崎委員）

10 月 65 件、11 月 61 件、12 月 64 件。全体としては落ち着いていたが、乳がんと統合失調症を併存する患者の対応が困難で多職種連携が必要なケースがあった。

○琉球大学病院（友利委員）

10 月 130 件、11 月 89 件、12 月 115 件。初回相談の外来予約を診療科と連携して積極的に取り入れたことで外来受診者が増加傾向。取り組みの成果が現れている。

6. がん相談件数集計（令和 7 年 4 月～6 月）

資料 10 に基づき、友利委員より、各拠点病院の集計比較について報告があった。今回、集計表の形式を変更し、カテゴリーごとにグラフと実数を確認できるようにした。沖縄県全体でのがん部位別の相談状況では、大腸がん、肺がん、膵がん、乳がんの順で、耳鼻科領域と肝臓がんは同数であった。各施設で特徴が見られる。相談内容の傾向では、「精神的苦痛・不安に関する相談」が最多、次いで「在宅医療に関する相談」が増加、「ホスピス・緩和ケアに関する相談」が多かった。

7. がん相談支援センターの広報（令和 7 年 10～12 月）

資料 11 に基づき、友利委員よりがん相談支援センターの広報について、新聞無料広告欄の掲載状況の報告があった。毎週掲載するよう依頼しており、引き続き実施する。

8. その他

次回開催について、令和 8 年 6 月 11 日（木）14 時から開催予定。